

立体土間居住体

～増改築の歴史の新しい幕開け～



ちょっと～財布忘れてるよ～！？

いまから買い物行くけど一緒に行くかい？

来月のフリーマーケットに出すもの
集めてみたよ

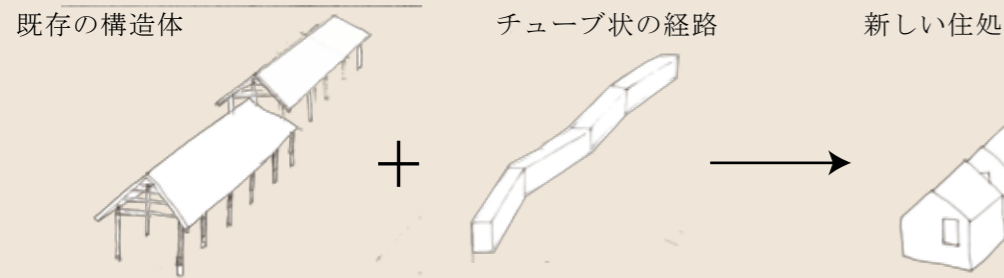
なかなかいい品揃えだね！
楽しみだな

お！行く行く！

おじいちゃん！
今日は家でご飯食べようよ

01 設計コンセプト

住まい手とともに長い年月を過ごしてきたであろうこの民家は、至る所に増改築の後が見られ、大切に使われてきた歴史が今も脈々と続いている。しかし、その歴史の変遷の途中である現在、すでに使われていない部屋や土間は時間が止まったように静かに佇んでいる。今回、集合住宅として新しくこの家に住まう人々を想定した際に、この地域では高齢者が全体の3分の1の割合を占めていることから増改築するにあたり、各住戸までスロープと土間を通してアクセスするようにした。スロープは、既存の構造体の下を上下左右自由に入り込むチューブ状の経路である。このチューブによって、立体的な土間空間と住戸全体をつなげていくことを提案する。

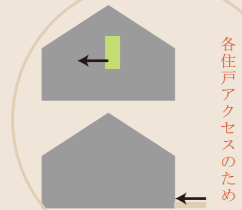


元々の構造体のなかに、今回新しくチューブ状の経路を組みこませ、その周りに残った空間に住まうという考え方。

同じ家型の断面でも、経路があちこちに移動することで住戸それぞれが個性を持った空間となる。

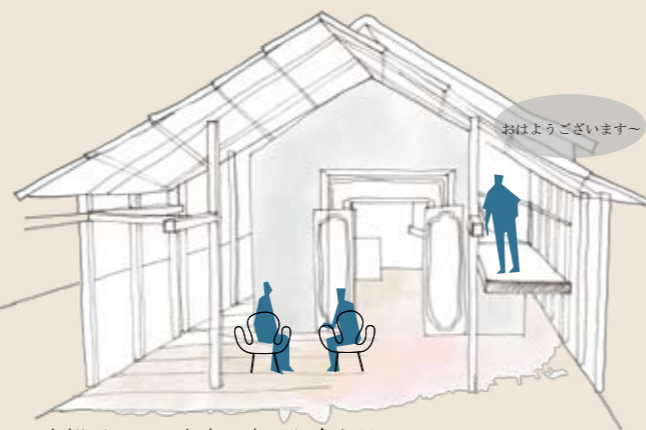
02 コミュニティ形成について

既存の土間空間が多いのが特徴的であったこの家は、現在ではそれが有効的に利用されていないように感じた。今回は、土間部分と経路が接するような動線とし中に入ったり、外に出たり経路を歩いて行く間にも環境の変化を楽しめる空間とした。

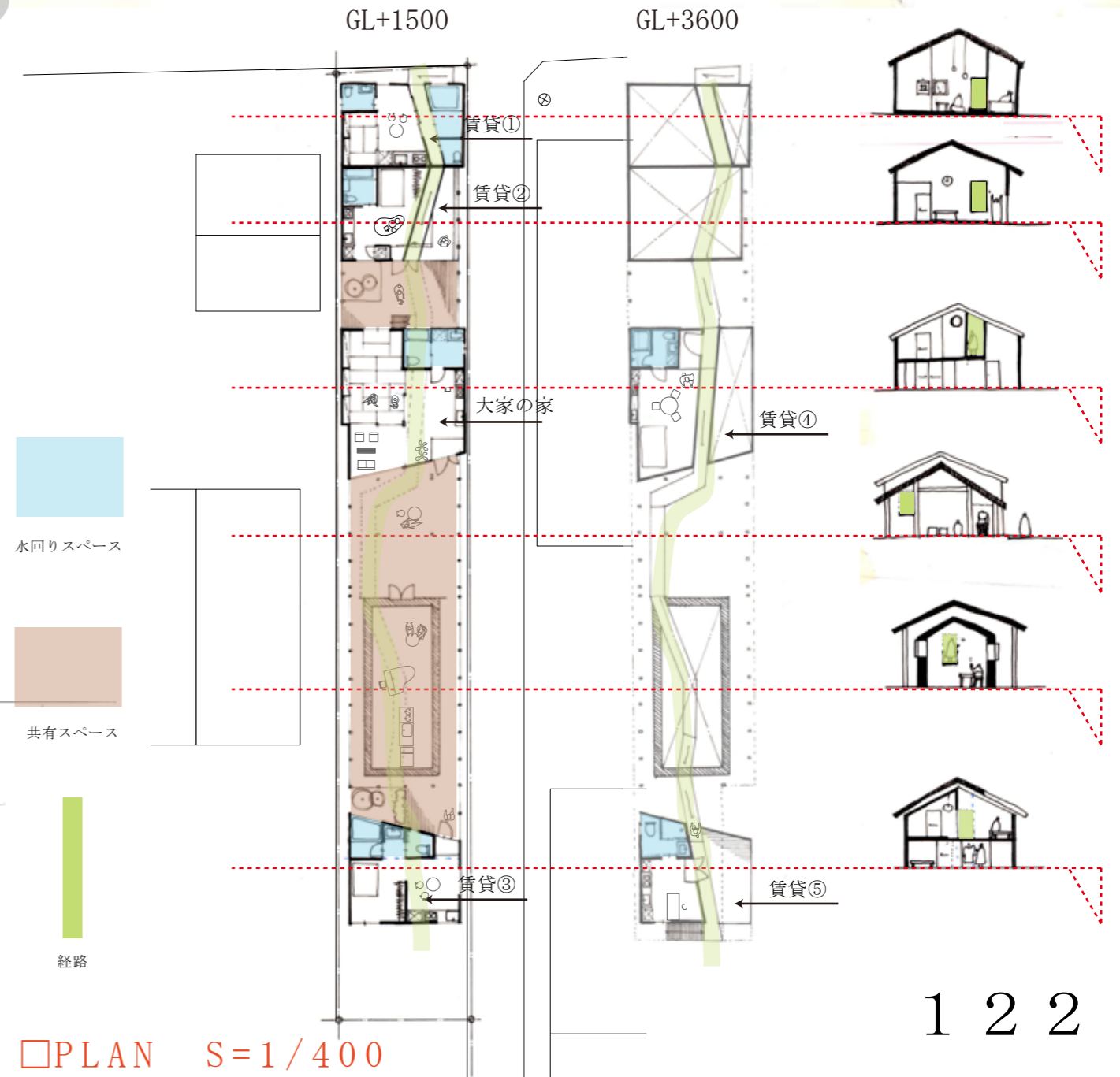


土間と経路

住民のコミュニティの場



内観パース：大家の家から倉を見る



□PLAN S=1/400